

馬頭観世音

三草川の左岸堤防のほとりに、「馬頭観世音」と刻まれた石碑がひっそりと立っています。

「馬頭」という名称から、古来民間信仰では馬の守護仏とされていますが、馬だけでなくあらゆる動物を救う観音とされていたようです。近世以降、流通が活発化し、馬が移動や荷運びの手段として使われることが多くなりました。これにともない、馬が急死した道端や馬捨て場に馬頭観音が多く祀られ、動物供養塔としての意味合いが強くなっていったようです。

この地でも、平安時代後期に源義経が戦った古戦場三草山があり、また近世には、三草藩の陣屋が置かれていたことなどから、合戦で戦死した馬か、もしくは三草藩で飼っていた馬を弔ったとも考えられますが、この碑のいわれは定かではありません。ただ、暴れ馬が静まるようにお願いすると、馬が落ち着いたと伝えられています。



参考；フリー百科事典「Wikipedia」